

はじめに

人口減少⇨コンパクトなまちづくり

立山町はもとより、国、とりわけ地方が政策を立案するにあたって前提とすべきは、これからの日本は人口減少期に突入し、働いて税金や保険料等を納める現役世代が急激に減少していくということです。そのため、**人口減少期に対応したまちづくり**をしなければ、現在のような行政サービスは維持できなくなります。

成長戦略⇨教育や産業育成に投資

これまで進めてきた教育施設の耐震化は、耐震壁の補強工事といった10年もてばいいというような延命措置ではありません。築50年も経過した公共施設については、立山中央小学校や立山北部小学校のように、国の財政支援が有利なうちに、思い切って改築しました。

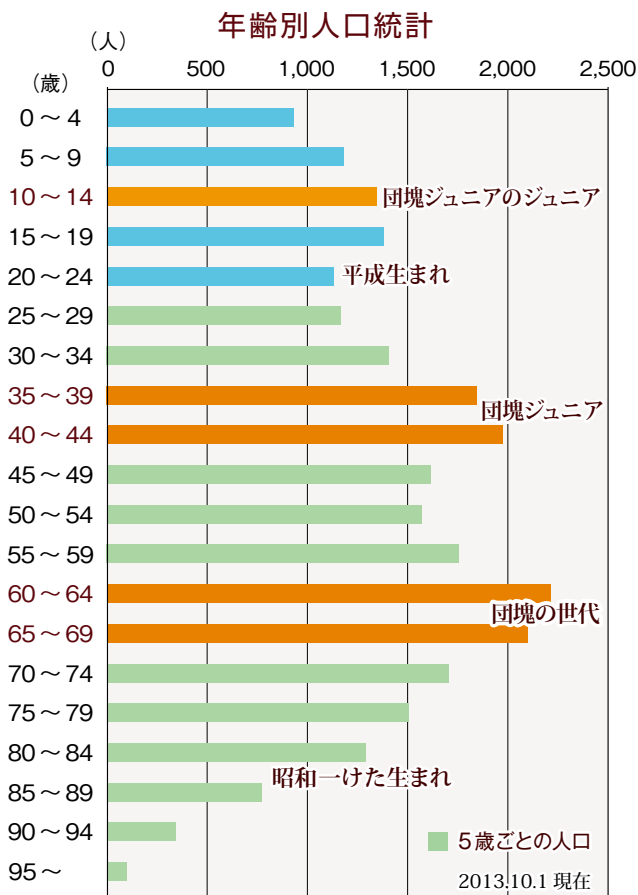
立山中央小学校グラウンド…近隣住民への砂塵被害防止のため、スポーツ振興くじ(toto)から工事費の5分の4の助成を受けて、人工芝にしました。





質の高い行政⇨成し遂げる勇氣

俗に言う団塊の世代の皆さんが75歳を迎える**2025年**頃から、本格的な超高齢社会に突入し、医療や介護の費用が増大します。これに照準を合わせ、その他の行政サービスの効率化を図ると同時に、地域ブランド力を向上させることにより財政力を高め、超高齢社会を乗り切れる**質の高いまち**をつくります。



立山町の人口27,253人(10.1現在)では、66歳の554人がピーク。次のピークは、団塊ジュニアと呼ばれる40歳の431人。

私事ですが、私は28歳で結婚しましたが、この年代は235人です。一組の夫婦で赤ちゃんを4人授かっても人口を維持できません。なお、この人口の波は、県や国とそれほど変わりません。

元気な2025年を迎えるために

① 責任ある町政

② 選ばれるまち

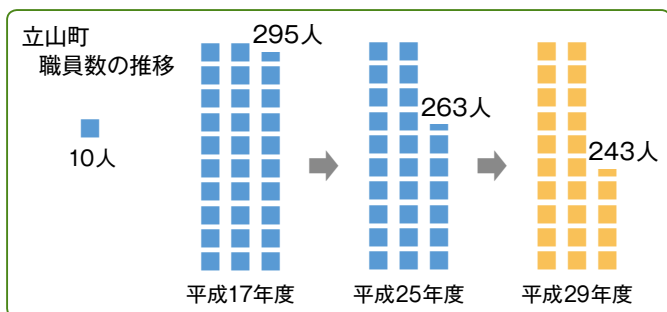
③ 社会保障を持続


責任ある町政

今やっておくべきことを先送りしないでやり遂げる。
しかも、次世代に過度な負担を残さない。

目標① 高齢化により増大し続ける社会保障費の財源を確保するために、役所をスリム化する。

- 民間委託等により、町職員数を平成29年までに20名程度削減



- 国基準の実質公債費比率を指標とした財政運営 
(H17年度 17.7% → H24年度 12.6%)
- 防犯灯を町管理としたうえで、LED化を図ることにより、町と集落の負担を軽減



実質公債費比率が25%を超えると、早期健全化基準団体(財政悪化)となります。

施策

- ☞ 26年度に新五百石保育所を移転・改築し、27年度から民間委託します。
- ☞ 26年度に、雄山中学校給食業務を新学校給食センターに統合します。
- ☞ 起債のうち最も多いものは、臨時財政対策債（42億円）ですが、これは、後年度、国が100%地方交付税で補てんすることになっています。国からの財政支援がない起債（借金）は、これまで同様、極力抑えていきます。
- ☞ 環境省の補助事業（💡）に合致しなかった消費電力の大きい街路灯も、順次LED化します。



これまでの防犯灯（蛍光灯や水銀灯など約3,500灯）

- ◆ 各集落（自治会等）の管理 **集落間に設置されず暗い**
- ◆ 町からの補助金は、電気料金の4分の3、新規設置工事費は2分の1（かつ、上限あり）



環境省のLED街路灯導入促進事業を利用すると

- ◆ リース会社が一斉にLED化する。
- ◆ 町はこれまでの電気料金の範囲内でリース料金を払う。（メンテナンス代は会社が負担）
- ◆ 10年後に町の所有となる。

ただし、集落間など真に必要な防犯灯は、町が26年度から設置



立山町内には、主にこの型のLED防犯灯が取り付けられます。

LEDと従来型蛍光灯の比較

	LED : 従来型蛍光灯	
電気料金	1	2
寿命	7	1

LEDは、水銀灯と比べるとさらにお得です。

目標②

公共交通機関の維持・活性化。

特に、地鉄立山線を残すことにあらゆる施策を集中させる。

- サイクル&ライドやパーク&ライドの推進
- 北陸新幹線と地鉄立山線をセットにした観光商品の開発

施策

- ☞ 稚子塚駅ほか自転車置き場等を整備します。
- ☞ 岩峯寺駅駐車場スペースを拡大します。
- ☞ 町営バス（ここバス）とワゴンの路線を見直します。
- ☞ 中学生のバス運賃の軽減を図ります。
- ☞ 「多手山プロジェクト」や車両整備負担など、乗ってみたくなる電車になるようこれからも地鉄に協力します。



稚子塚駅



岩峯寺駅駐車場



丸の内朝大学（東京の社会人自主勉強会）の皆さんが発案した「多手山プロジェクト」

目標③

地籍調査を加速化する。

- 2025年までに五百石地区を完了
- 森林の境界を明らかにするなど、整備を着実に進め、里山を保全

施策

- ☞ 26年度から、24年度対比2倍程度の予算を確保し、五百石地区調査を前倒しします。
- ☞ 森林保全と二酸化炭素軽減のため、間伐による木質ペレット燃料の使用を増やします。



間伐材から作った、
木質固形燃料ペレット



ペレットストーブ
(立山町役場)

間伐と森林保全

森の木を適切な間隔で間引きすることにより木は健やかに成長し、豊かな森林は雨をゆっくりと川に流したり、土砂の崩壊を防いでくれます。



森林のもつ公益的機能

成長する木は盛んに光合成を行い、二酸化炭素(CO₂)をたっぷり吸収するので、地球温暖化防止につながります。

木質ペレットはエコエネルギー

木質ペレットが燃えて出るCO₂は原木が吸収していた分だけ。大気中のCO₂を増加させる化石燃料と違い、環境に優しいエネルギーです。

さらに、燃焼灰は天然有機特殊肥料として散布できます。

選ばれるまち

教育力と安全対策により、「選ばれるまち」づくりを進める。

目標① 学校教育環境は県内トップクラスを目指す。

- 公共施設の耐震化を 28 年度末までに 100%。

施策

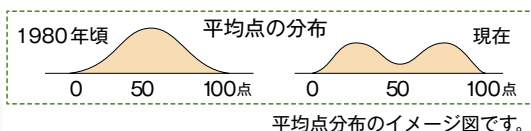
- ☞ 耐震性がない勤労青少年ホームの友情館や町民体育館（旧勤労者体育館）のあり方を検討



友情館

目標② 基礎学力は県内トップクラスを目指す。

- 基本を確実に学ばせることにより学力の 2 極化を防止し、全体的な底上げを図る。



施策

具体的施策

- ☞ 長期休暇（夏季等）を 5 日間程度削減し、授業時間を確保します。（☆土曜授業導入の前にやれることを）
- ☞ 22 年から実施した「立山型放課後学習教室」の推進
- ☞ 多人数教室による学習では十分理解できない児童や、普通級に在籍する発達障害のある児童に、「学習支援員」を配置する施策を今後も続けます。（21年12月から実施）



冷暖房完備のランチルームで、放課後と長期休業期間中、生徒の自主学習を富大生がサポート



教師OBによるスクールケアサポーター

目標③

子育て支援

- 中学生の医療費を助成(通院費自己負担3割→1割)
- 小・中学生のインフルエンザ予防接種費用を医療費助成の対象に
- 多子世帯の保育料金を軽減

施策

☞ ジェネリック医薬品の普及やインフルエンザの予防接種率を向上させることにより、医療費の総額を削減し、その分を子育て支援拡大に充てます。



近年、医療費無料化の対象年齢引き上げを、全国の自治体間で競争しているようにうかがえます。しかし、その財源が税金であることも忘れてはなりません。

そこで、県内の複数の市長に対し、平成26年度から同一歩調をとれないかと提案しました。

目標④

歩く人の安全対策

- 路肩のカラー舗装。また、老朽化した側溝改修や舗装のやり直しにより、段差の少ない道づくり

施策

☞ 歩道の設置は用地や物件の補償に時間がかかるので、すぐにできることと、すぐにできないことを仕分けし、改修を進めます。

中央小から北へ下がる道(通称あいさつ通り)の側溝改修



カラー舗装された県道。町道は、緑色に舗装する予定

社会保障を持続

未来に投資し、「まち力」を高め、社会保障を持続させます。

目標① 農業経営基盤強化を図り、農家所得の向上を目指す。

- 担い手への農地集積と集約化
- 農産品等のブランド化や6次産業化の推進によって、高付加価値化による雇用を創造

施策

- ☞ 農業水利施設等の整備や、農地窓口相談員（町単独事業）による斡旋を継続します。
- ☞ 厚労省の実践型地域雇用創造事業（国庫負担100%、H25～27年度）や農林水産省の6次産業化支援事業などを活用します。

目標② 地域力を維持

- 中山間地域に、農業や工芸等の担い手となる外部人材を誘致。移住定住を推進

施策

- ☞ 農林水産省の都市農村共生・対流総合対策交付金（H25～26年度）による『田舎で働き隊』を受入れます。
- ☞ 総務省の『地域おこし協力隊』ほか、国・県の施策を活用しながら、それぞれの地域独自の魅力アップに努めます。



首都圏から立山町に来て陶芸を学んでいる研修生

目標③

企業を誘致し、税収確保を図る。

- 12年後の税収確保のために、企業立地環境を整備。これからもトップセールス

施策

- ☞ 農地転用手続きをスムーズにするために、立山イノベーションパークを工業用途地域指定し、道路や雨水調整池などのインフラを整備促進します。

立山イノベーションパークは、利田地区にある中越合金鋳工(株)南側用地の通称です。

Q 利田地区に企業進出が多いのはなぜ？

A 企業経営者

「富山市内にあった工場が手狭になり、新たに用地を求めることにしたが、現従業員の通勤を考慮すると、なるべく、富山市に近い場所がいい。また、新たに雇用を求める場合も、人口が多い富山市に近い方が確保しやすいから。」

立山イノベーションパーク遠景



左奥 前田薬品工業(株)
右 (株)タイヨーパッケージ

目標④

元気な高齢者がいっぱい町を目指します。

- 働く場や、運動する場を開拓

施策

- ☞ 常願寺ハイツのシニアメニューの拡充や、交通アクセスの利便性アップに努めます。

舟橋たかゆきプロフィール

経歴

- 1965 5月17日生(48歳)
利田小、雄山中、
富山東高卒
- 1984 明治大学商学部卒。
雄弁部在籍中に、
河野洋平代議士
(元衆議院議長)と出会う。
- 1988 河野洋平事務所の方針によりサラリーマン
- 1989 衆議院議員 河野洋平秘書(8年間)
- 1998 立山町議会議員当選(32歳)
- 1999 県内の若手市町村議会議員で構成する政策勉強会『政策フォーラム34』を設立、初代代表
- 2002 立山町議会議員当選(36歳)
- 2005 市町村合併の進展を踏まえ、『新自治体経営塾』を設立、初代代表
- 2006 立山町長に当選(40歳)
- 2009 総務省自治行政局の『地域経営の達人』に選定される(全国で137人)
- 2010 立山町長に再選(44歳) 現在2期目



現役職

全国中山間地域振興対策協議会副会長
全国観光地域所在町村協議会常任理事 ほか



趣味 スポーツ・コンサート
観賞(だった)。
農事組合法人こがねの
メンバーです。

家族 父・母・妻・娘2人

好きなことば
挑戦するものが成功する

富士山山頂にて(H24年)

舟橋たかゆき後援会

〒930-0274 富山県中新川郡立山町五郎丸161
TEL (076) 462-3439 FAX (076) 462-3825
E-mail takayuki-f@ma.net3-tv.net



<https://www.facebook.com/takayuki.huna>
ブログ「大勇」(たまに更新)
<https://www.21styles.jp/diary/takayuki/>

立山のちからこぶ2014



チカラになれる

ふな はし たてやまの勇氣(48才)
舟橋 たかゆき